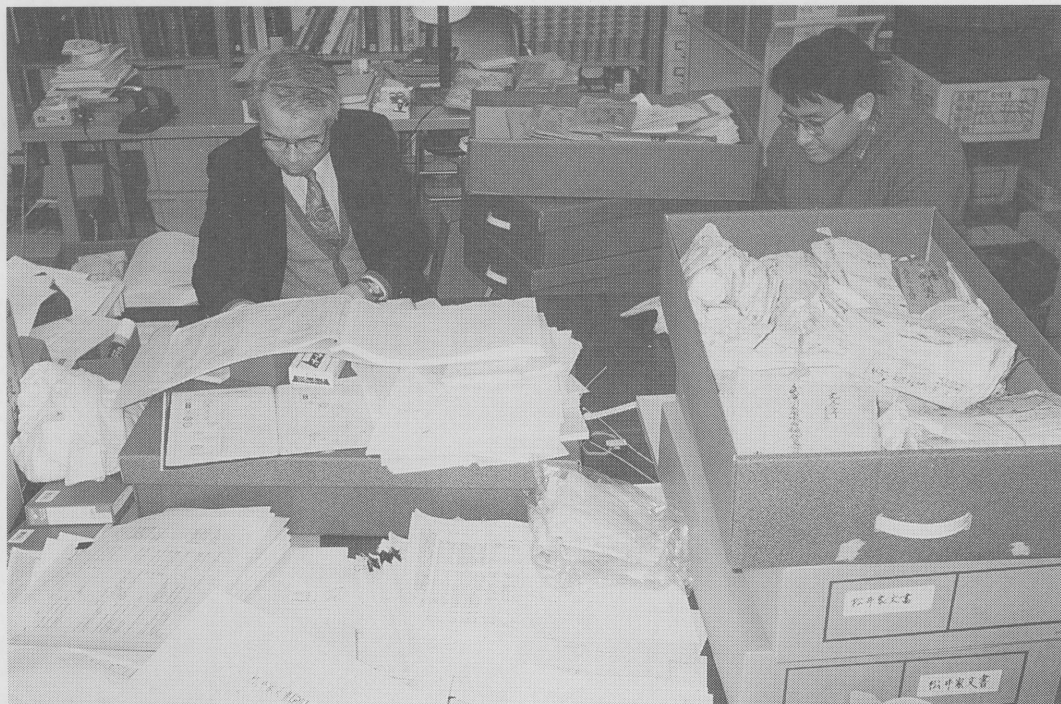


THE NEWSLETTER OF NISHINOMIYA CITY MUSEUM

西宮市立郷土資料館ニュース 第19号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662 電話0798-33-1298



古文書整理作業

目次 CONTENTS

西宮市における古文書の現状と課題（大崎正雄）… 2

郷土資料館の企画陳列（合田茂伸）… 5

震災と民俗資料（土居佳代）… 6

寄贈資料一覧… 8

西宮市における古文書の現状と課題

大崎正雄（当館嘱託）

1. はじめに

1995年1月17日兵庫県南部を襲った大地震は、大災害について比較的安易に考えてきた当地方の人々を驚愕させるのに十分すぎるものであった。この大地震による被害は各方面に及んだが、文化財の被った被害また甚大であった。その中であって建造物等の場合は焼失を除き、残存する素材を持って復元が比較的可能であるが、紙片の場合瓦礫と混在したり雨水に当たってしまえば復元が極めて困難となる。西宮市域内（北部地域を除く）における記録資料も大きな被害を受け、失われてしまった資料も少なからず存在したのではないと思われる。そこでとくに古文書を中心に震災前後の状況についてまとめておきたい。

2. 古文書の現状

本市域における古文書の状況については、郷土資料館ニュース（以下館ニュース）第8号(1991.1.1)「西宮市における古文書の現状と課題」⁽¹⁾に紹介させて頂いているのでそれを参照頂ければと思うが、その後、本市に寄託寄贈を受け郷土資料館に保管されている古文書も可成な数に及んでいる。表1にそれを示しておく。

それらの郷土資料館収蔵文書については、今回の地震により多少文書収納箱の移動がみられたものの文書についての被害は全くなかった。心配されたのは個人所蔵の文書であった。そのほとんどは旧家であり、この震災で旧家のほとんどが大きな被害を受けられていたからである。

地震後の1月23日から心配された旧家の訪問行い、被害状況等の調査にあった。そのうち家屋が無事であったのは2軒で、残りすべては全壊かあるいはそれに近い状態の被害を受けられていた。文書所蔵宅には救出等を含めた今後の措置について、ご連絡いただくよう名刺をお渡ししお願いしておいた。確認調査を実施した旧家は16軒であったが、調査訪問日以外で直接救出に当たったのは表2の通りである。表2の救出史料はすべて郷土資料館に収納した。そのうち現在までに寄託を受けたのは表3の通りである。その他については目下手続き中である。

現在は震災後の寄託史料の整理を鋭意行なっているところである。点数の少ない場合は

ともかく点数が多くなると整理を行なう人員のこともあって、気は急くがなかなか進まないのが現状である。寄託手続きの際一応仮目録をお渡しするようにしているが、今回は点数の多い分については後日出来るだけ早い時期とさせて頂いている。一方、郷土資料館収蔵庫は満杯に近い状態である。しかし、所蔵者のためにも市民のためにも、今後も受け入れていかなければならない。可及的速やかなる整理体制の充実が望まれる。

3. おわりに

以上、館ニュース以後震災までの状況を述べてきたが、震災後の史料救出について史料ネット等救出のための外部組織との連携を、自治体としての十分な態勢をとり得なかったことが反省点として残る。その中であって3月27日史料ネットによる岡本家近代文書の救出は大きい。近世以前の文書については比較的把握が進んでいたが、明治以降の所謂近代文書については、所有者においてもさほど強い関心を持って居られなかったのが実状であろう。今回の地震においても可成の文書が失われたと想像される。特に明治以降の近代史については、まだまだ解明されるべき点が少なくない。その意味で地方史料の発掘調査と整理保存が重要となってくる。今こそ今回の震災を教訓に『公文書館法』の主旨に則り、貴重な歴史資料の整理保存と活用をはかるべき努力を怠ってはならない。その努力は古文書担当(課)を発展的に解消して設置された文化財課が、重要施策の一つとして役割を担ってきている。他の文化財と同様に文化財としての歴史資料の整理保存は、現在の非現用公文書収集保存と合わせて、自治体が現在の市民のみでなく、後世の市民に対しても果たさなければならない責務である。

No.	文 書 名	旧町村	点数	種別	内 容
1	八馬兼介氏文書	西 宮 市	118	寄贈	s 6～9の西宮市会関係、金融機関関係
2	高木部落有文書	高 木 村	2257	寄託	近代文書含む
3	松田光広氏収集文書	西 宮 町	1	寄贈	振手形
4	日下萬之助文書	上ヶ原新田	3	寄贈	岩穴関係他
5	前田昭氏文書	中 村	1379	寄託	庄屋文書他
6	松岡孝彰氏文書	生 瀬 村	605	寄託	庄屋文書、村関係文書他
7	社家郷寒天関係文書	西 宮 市	318	寄贈	寒天製造関係資料
8	川合茂兵衛氏文書	小 曾 根 町	452	寄託	戸長関係文書他
9	加島貞二氏文書	瓦 木 村	3	寄託	瓦木村合併関係他
10	倉内卯一郎氏収集文書	鳴 尾 村	6	寄贈	辰馬半左衛門関係
11	瓦木中央土地地区画整理関係文書	瓦 木 村	821	寄託	(岡本氏蔵)
12	葛馬邦彦氏文書	大 市 庄 他	8	寄託	山境争論絵図他

表1 寄託・寄贈を受けた文書

No.	所蔵宅名	所 在	救出活動日	備 考
1	岡本紀士生氏	瓦 木 町	2 / 3、3 / 27、30、4 / 3	3 / 27は史料ネット(2)による救出
2	岡田宏一氏	広 田 町	2 / 14	民具類中心
3	箕面崎康子氏	甲子園口	2 / 14	
4	小西敏子氏	甲子園口	2 / 16、3 / 17、24、4 / 10、11	
5	吉村武一氏	荒 木 町	2 / 14	
6	川合祐一氏	小曾根町	3 / 7、10 / 28	
7	厩松浩平氏	段 上 町	3 / 27	史料ネットの協力
8	東薫氏	北 口 町	5 / 23	史料ネットの協力
9	広瀬和男氏	六 軒 町	5 / 24	
10	中島完氏	門戸西町	8 / 2、21	
11	嵩下ミツ氏	門戸西町	11 / 8	史料ネットによる救出

表2 救出にあたった文書

No.	文 書 名	旧 村	点 数	内 容
1	岡本家文書	上瓦林村	約100箱(注)	瓦林組大庄屋文書、瓦木村戸長文書他近代史料、古典籍
2	松井家文書	下瓦林村	15箱	百間樋訴訟、水車営業関係他
3	小西久嘉氏文書	下瓦林村	408	宗門帳他
4	吉村武一氏文書	荒木新田	13	兵庫県統計書他
5	川合茂兵衛氏文書	小曾根村	10箱	鳴尾村北部区画整理関係資料
6	厩松昌純氏文書	段 上 村	7箱	段上村庄屋文書、古典籍
7	広瀬治兵衛氏文書	六軒新田	345	六軒新田庄屋文書他

表3 寄託を受けた文書

- (1) 大崎正雄 1991年「西宮市における古文書の現状と課題」『西宮市立郷土資料館ニュース』第8号
- (2) 阪神大地震対策歴史学会（歴史関係4学会）が救出活動の窓口として開設した、歴史資料保全情報ネットワークの略称。今回各地で被災資料の救援活動を行ってきている。
- (3) 箱表示は、未整理の為ダンボール箱換算で示したものである。

郷土資料館の企画陳列

合田茂伸(当館学芸員)

西宮市立郷土資料館では、1992年から「企画陳列」と題した小展示をおこなっている⁽¹⁾。初夏の陳列では常設展示ではとりあげていないテーマをえらび、冬季の陳列では民俗資料を一定のまとまりごとに展示することになっている。第7回目までの内容はつぎのとおりである。

- 第1回 「西宮の町人文化」(1992. 4. 11→6. 28) 展示資料数10点
- 第2回 「民具～くらしの道具～」(1993. 1. 12→3. 14) 展示資料数16点
- 第3回 「西宮の民間信仰～伊勢講～」(1993. 5. 18→7. 18) 展示資料数2299点
- 第4回 「民具～くらしの道具～装う」(1994. 1. 11→3. 13) 展示資料数65点
- 第5回 「西宮の中・近世文書」(1994. 5. 31→7. 17) 展示資料数8点
- 第6回 「民具～くらしの道具～あたたまる」(1995. 1. 10→1. 15) 展示資料数19点
- 第7回 「民具～くらしの道具～はかる」(1996. 1. 9→3. 10) 展示資料数32点

観覧者はつねに変化をのぞんでいる。当館では、常設展示室においては、年1～2度展示資料の一部入れ替えをおこなってきたが、これに気づく観覧者はすくない。通史的常設展示の放棄は、困難であるので、ときにはその一部を解体して、企画性のある小展示をおこなうことにしたのである。企画陳列は、常設展示室内に異空間をつくりだして展示資料の入れかえを気づかせ、「いつもおなじで、かわりばえしない資料館」を払拭するために、うまれた。ひとつの会場に異空間をつくりだすために、常設展示とはことなるフォーマットで、タイトルパネルやネームプレートを用意し⁽²⁾、種類のことなる展示台をもちいている。常設展示室にはグラフィックパネルを多用しているので、企画陳列ではできるだけパネルを排除した。説明的ではなく直感的な展示を、理解する展示ではなく、わからないことをみだし、しらないものをみつけだす展示を実現してみたい、とかがえている。

(1) 西川卓志 1995年「開館10年を経過した郷土資料館」『西宮市立郷土資料館ニュース』第18号

(2) 当館創設当時からアートディレクターとして展示、出版にかかわった多田拓生氏が昨年末亡くなられた。氏から学んだことは多い。この場をかりて感謝する。

震災と民俗資料

土居佳代(当館嘱託)

今回の未曾有の災害をもたらした阪神・淡路大地震は、100年近い歴史を持つ旧家や蔵などの倒壊・半壊という大きな被害をもたらした。この地震の影響で寄贈を受けた民俗資料は、未登録分も含めて約2000点ちかくなる。寄贈の申し入れがあったのは、震災後約1ヶ月を過ぎた1995年2月中旬から1995年4月中旬頃に集中し、その後1995年12月中旬までに数回あった。のべ17件の寄贈を受けた。

寄贈を受けた方は次の通りである。(五十音順)

岡田宏一氏(広田町)・岡本紀士生氏(瓦林町)・鹿塩健一氏(東町)・木村昌弘氏(本町)・小西敏子氏(甲子園口5丁目)・阪下ひで子氏(郷免町)・田中政雄氏(上ヶ原山手町)・糸松浩平氏(段上町)・橋本惣右衛門氏(松風町)・平木潔氏(今津久寿川町)・松本良三氏(能登町)・南佐智子氏(建石町)・三好よし子氏(甲子園一番町)・吉田眞由美氏(西福町)である。

寄贈を受けた資料を分類別に列記すると次の通りである。(未登録分を除く)

衣生活(8点) 羽織・袴・カイオビ・羽織の帯・襦袢・着物

食生活(26点) 米櫃・フルイ・半切り・タライ・アルミ製食器類釜・五合杓・鍋・搦り鉢・羽釜・羽釜用の輪・キリバン・椀・箱重

住生活(11点) 井戸汲み用の桶・釜付き風呂・ヨシズ・提灯・豆炭アンカ・電気コタツ・カイロ・足用火鉢

農業(35点) フゴ・カラサオ・唐箕・フルイ・麻袋・棧俵・手カギ・米サシ・トオシ・鍬・ナラシ・カラサオ・俵編み機・担い棒と水桶・草取り器・田植え用縄・シロカキ

漁業(7点) 筵・延縄漁の縄・打瀬網漁のオモリ

交通(2点) 自転車・カメラ

交易(17点) 一斗杓・井筒屋商品券・秤・前掛け・商売用の袋・杓・棒・ソロバン・箕
信仰(1点) 提灯

人生儀礼(15点) 産着・本膳・座布団・三三九度の盃・祝い膳・重箱・重箱台・文机・本箱

民俗知識(1点) 搜瓶 以上119点



民俗資料整理作業



第3 収蔵庫

未登録の民俗資料には、段上町の帛松浩平氏から、先代が農具一式と生活用具を展示の目的で収集していた資料をはじめ、甲子園口の小西敏子氏からは江戸時代末から大正期にかけて葬儀で使用した漆器や、同じく江戸時代のひょうたん秤・両替用の天秤ほかを収集した。郷免町の阪下ひで子氏からは、農具小屋から鋤鋤類、屋根裏から書籍のはいった俵、倒壊した家屋から漆器類・着物類・伸子張りの道具・オヒツや弁当箱・番傘や回転コタツ・西国巡礼の装束などを寄贈いただいた。

寄贈資料一覧（平成7年7月～平成7年12月、敬称略）

筵・延縄漁の縄・打瀬網のオモリ（鹿塩健一）、教科書図書（向野泰祐）、銭一袋・外食券・豆炭アンカ・電気コタツ・カメラ・商品券（平木潔）、阪神電鉄震災復興関連資料（白石健二）、三三九度の盃（木村昌弘）、故実叢書（原和子）、昭和10年6月撮影市内写真（甲子園野球塔・甲子園浜ヨット・甲子園阪神パーク遊園地・甲子園阪神パーク内ペンギン）（今林澄子）、羽織・羽織の紐・袴・カイオビ・襦袢・着物・秤・カメラ・祝い膳・重箱・重箱台・文机・本箱・千人針・日章旗（三好よし子）、鍋・揺り鉢・羽釜・羽釜用藁の輪・キリバン・椀・七子重・カイロ・足用火鉢・担い棒・水桶・前掛け・袋・枡・斗棒・ソロバン・箕（吉田真由美）、千人針・支那事变従軍記章・勲章釣金具・幕・平壤神社武運長久御守・略帽（野戦用）・襟章（中尉）・弾薬盒・胴締め・略刀帯・功労章帝国在郷軍人会・手袋（右手のみ）・勲六等単花旭日章・刀帯・刀緒・記念参加章武庫郡聯合分会章・皇紀二千六百年記念章・帝国在郷軍人会武庫郡聯合分会章・軍人勅諭集（付戦陣訓）・戦陣訓・陸軍未入営補充兵手牒・従軍手帖（昭和12年）・手帳（昭和12年）・郵便貯金通帳・軍事郵便封筒・帝国在郷軍人会々歌・葉書（満州岡本史郎氏より）将校戦時携帯物品ノ標準・襟章（星型）・軍刀部分・羽織の紐・短袴（野戦用）・防寒用襦袢・防寒用袴下・袴下・レインコート（フード付き）・軍衣・三式外套・マント（フード付き）（岡本紀士生）、錠前（田中政雄）

ありがとうございました。